

5. 懇親会出席者のスピーチ (2004.7.23 後半)

5-1. 鈴木 威 一 様

我々昭和41年卒は3人が今日出席しております。

先ほどお話のありました塚本さんと私とはある意味で大変似たような状況にありまして、昨年の10月に会社をつくりました。それこそベンチャーの会社で、私の場合は、実質的に一人ではじめているようなものなんですけれども、ちょっとその話をさせていただきます。

その前に、この会の最初に今井先生からお話があったように、この会をどうやって継続させるかというお話をさせていただきます。

ここにおられる方は、私みたいな劣等生は別といたしまして、かなりいろんな所で活躍されていて、本当に優秀な方がおられるので、ここでの「一寸の話」と言うのはあまり短か過ぎるんですね。ですから1時間が1時間半ぐらい講演会を中に入れていただいではどうでしょうか？ さっき塚本さんがプロジェクターで次回はやるというお話がありましたけれども、これで来年は決まったわけですが、こういうことが結構メインになり得るんですね。小野さんの話だって、1時間や1時間半ぐらいじゃ全然足りないと思うんですね。技術的に難しい話をしてもしご出席の皆さん、ついてこられる方々だし、私の様なレベルの低い話に対しては勿論です。

例えば会社で今やってる事だけじゃなくても、人生についての関わり方や想い、例えば、俺は今こう思っているんだよとか、何ももう仕事のことには関係なく話をしてもいいと思うんですね。

それが各自の趣味であって、こういう事をやってる、というのを1時間講演していただいてもいいと思うんです。何かそんなことをやっていただくようにしたら、この会に対しますます張合いがあって、出て来たくなくなるような気がするんですね。一寸そんなご提案をさせていただいて、私自身の紹介を少しさせていただきます。

二番手に鈴木さんをお願いしたいと思います。なかなか手がないものですから。再来年の講演を期待しております(坪井)

はい、言いたしっぺですから、何とかしたいと思いますが。

私がどんな会社を創ったかということをお話したいと思います。去年の今頃はまだ会社が、有りませんでした。

私は沖電気はかなり長くおりまして、その後アメリカの半導体のメーカーに5年間、その日本法人の社長をやりにまして、その後フィリップスというオランダの会社にいきまして、そこで日本の副社長を最終的にはやりまして、昨年の春で辞めたわけなんです。

関連会社に行くという手もありましたが、堅苦しい思いをしてまでそこで仕事をするのはもうやりたくないと思ひまして。とにかく会社から離れる、ということをして約5ヶ月ぐらいでしょうかフリーでございました。その間いろいろ考えながら、やっぱり自分で何かやってみるか、ということで自分の会社を創りました。

ホームページの方にも出ているんですけども、企業方針としては、「相互信頼をベースとして世界のネットワークで人に感激と、感謝と、喜びをもたらす企業を目指します」ということをいろいろ考えた末、会社の目指すタイトルにしたわけなんです。実はこれを作ってから間もなくシチズン時計の会長さんとお会いしまして、『鈴木さん、この企業は一言も儲かるって話が入っていないね、大丈夫なの、来年まであるの』と言われたんですね。考えてみると、皆なで喜ぶという話だけしかなくて、確かにそんな事で企業をやっているのか、ということもあるんです。

一応今はやりの通産の一元企業というのがございますけれども、通産の施策を利用しまして、一応株式会社として発足をいたしました。

実際に何をやるかということですが、当初表明したのは「知的財産権関係の日本とアメリカの関係、経営関係のソフトウェアに関する事(アメリカとの関係)、企業経営革新(日本の会社の経営革新)、中小企業の品質管理関係、通信事業所の法規に関する事項、海外への工場進出に関する件(タイと中国を特に重点とする)、それからバイオテクノロジーに関する事項(デンマークとの関係)、家電と半導体関係(オランダ、フィリップスに関わる事)」なんです。

というようなことをいっぱい掲げまして、「要は何でもやりますよ」みたいなことを、ぱっと広げてみたわけです。何故そんなことをしたかということ、実は自分の40年間の棚卸をいたしまして、それで何が出来る

のかを考えました。その結果、どうも色々な「国際的なネット」がある、と言うことに気が付きました。そのネットを使っていくと、もしかしたら仕事ができるかもしれないと。

喜びながら何かができればこれに越したことはない。とにかく全部書き出して、掲げてみよう、ということでは何か訳のわからんことを言ってみたというわけです。従って自分の今までのやってきた経験を何か活かせるかという発想で作った会社ではないのです。むしろ全然分らない世界で仕事を始めてみたんです。

その結果1年が経ちまして、ご案内の所（近況報告）にもちょっと書いてございますけど、大体は思うようにいかなかった、と言うのが正直なところでございます。

この内どれが動いたかと言うと、お金が実際に入ってきているのは、結局経営コンサルタントというんですかね。実際にいくつかの会社の経営コンサルタントをやっておりまして、その関係で定期的にある程度お金が入ってきています。

それから思ったより面白かったのは、アメリカの調査会社からたまたま調査の依頼が去年の12月ぐらいにあったことです。これはクリスマスの寸前だったものだから、何処も引き受ける所が無くて多分しょうがなくて私のところにきたんじゃないか、という感じのものだったんですけれども、たまたま私がやってきた半導体の関係の調査依頼でした。それを仲間3人で集まっているいろいろ作り上げてぱっと出しまして、これでもう多分終りだな、と思いながらやったんです。それが、意外と評判が良かったらしくて、また2ヶ月ぐらい前でしたか、その同じ調査会社から、（その調査会社自身は世界的に大変有名な会社で日経やなんかで会社名が出るぐらいの会社なんですけども）そこから依頼がまた来まして、今回も2ヶ月ぐらいで終えたんですかね、3人でやっぱり同じように取りかかってやったんです。ところが今回は、こんなにも大変なのかということを一方向では思いました。こんなことだったらやるんじゃないかと思ったけれども一応答えを出しました。

そして、お金は思ったのとは違った形で入って来るようになったのです。

今回の結果についてもまあ良くやってくれたということで、何と『継続的にできれば仕事がしたい』という連絡をいただいたんです。

もしかしたらその仕事が会社のメインになってくるのかな、という気がするんです。私が会社を作ったときは調査活動をやりたいとは全然思っていなかったのです。ですから、そういう意味では丁度私も10月に会社を創ったものですから、あと数ヶ月で丁度1年になるんですが、本当にこれが俺のやりたかったことなのか？と驚沢な悩みを感じています。

それから企業というのはやはり、さっき塚本さんがおっしゃったように、だんだん伸びていかなければいけないわけですし、継続性がなければいけないわけです。そうすると一人の会社で今は始まったばかりですが、これをある程度チームとして動けるような会社にだんだんとしていくことがより重要になってくるわけです。今まで社長として又役員としてやってきたことがありまして、結局は出来上がった会社のなかでやってきたわけです。そうした組織内でやって行くのと、自分個人で全てをやっていくのとでは、これをどうするのか、という判断の時に可成り違った感覚になると受け止めております。そんな中で、来年どんな風にしていくのか、もう一度また自分の棚卸を年末にして、どういう会社にしていきたいのかを考えたい、と言うようなことを今思っている最中です。

それ以外で今、割合に面白いのは、知財関係です。知財がこんなに動くとは思わなかったたものですが、・・・、今世の中で知財の関係が、日本の中で大変話題になって、ものすごく動いているわけです。塚本さんのお話と同じ様な形で今TLOからも依頼がありまして、東京医科歯科大の方と、とりあえず仕事が始まるかもしれない状態になってきております。学校関係には、経営経験のある方がいらっしやらないので、いろんなサポートが欲しいというわけです。もしかしたらそういうところで、なにかの仕事が出てくるのかな、ということで今お話を聞かせていただいています。

医科歯科大が非常に面白いと思うのは、医学というのは特許が無いんです。医学というのは特許が取れないんですね。ところが薬学は取れるんです。特に日本の医学というのは（知財についての）国際的施策が非常に遅れておりまして、下手をするとアメリカ辺りはそこをいろいろ上手くやって、知財でどんどん押さえてくるんです。そうすると日本の理系とか薬学系が、昔（アメリカの）知財国家政策で、日本のメーカーがアメリカの会社に叩かれたように、今度は医療の分野でそういう事が起こる可能性があると思うんです。

そういう国家特許戦略的なものに対応する方法がもっと理解されていなければいけないんですけれども、お医者様はもう全然こういう事には駄目なんです。そういうものを一体これからどうしていくのか、という一つの大きなテーマがあるように思います。そんな事に何か資する事ができれば・・・と。

たまたま私のクラスメートだった男がアメリカで特許の弁護士をやっているものですから、それと手を組んで実際にはやっているんです。

ただこの件はお金が入って来るというのには当分遠いかな、という風に思っております。興味を持って面白いなあと言う仕事はなかなかお金が入ってこない。お金が入ってくるところはやっぱり結構厳しいのです。

また良く言われるように、自分の会社にすれば何か少しは自分の思う通りになるだろう、と思ったりしていたんですけども、そうではなくてやっぱりお客さんがいるわけですから、お客さんに合わせなければならぬ。という面がすごくあるんだなということを、(ある意味では当たり前のことですが)今更ながら実際の身となって感じさせられている、というところです。

大変なにか会社の宣伝みたいな話になってしまって、すいませんでした。以上です。

今、鈴木さんから、この会をどのように存続させていくかという一つの案として、少し長い時間をかけて、ものの考え方もいいし、あるいは技術の内容でもいいし、そういうものを取り上げたらどうかという提案だったと思います。鈴木さんは沖電気、それからインターナショナルレクティファイアー社長、それから日本フィリップスの副社長、とそういう企業での経験プラス今、自分の企業を立ち上げようとしている時の悩み、それらを棚卸をしているんな無形の資源を揃えて試行錯誤をされておられるようですけれども、そういう今までの多くの会社での経験を基に、こんな事を考えているんだということをもう少し詳しくプレゼンテーションをして頂くことを、この次お願いして置いたらどうでしょうか(今井先生)

先ほどのお話で、来年は塚本さんにスライドを使って話をさせていただくことにしているので、再来年ぐらいに鈴木さんをお願いできればと思っています。ただ、これからこうした講演を依頼されたがために、この会に出るのが負担になるというのでは逆効果なので、皆さんにお願いする場合、そこだけは遠慮なく言っていた方がいいと思います(坪井)

(「会報掲載」に当たってのコメント：鈴木さんは、今年に入って『一期一会』と称する集まりを主宰され、一月には第一回の会合を催されました。鈴木さんの優れたお人柄と豊かなご経験に基づく人脈に感銘を受けました。立派な講師を招いての勉強会ですが、聴講者から寄せられたアンケート結果を教えて頂き、その評価の高さに驚いています。次回懇親会では、この「集まり」についても是非ご紹介できれば、と思います。

今井)

5 - 2 . 伊藤 恭弘 様

皆様立派なお話ばかりで、僕がこの席にいるのが場違いではないかと思っています。

昭和 43 年にアイワ(株)を病気の為退社し岡崎に戻り家業を継ぎ、現在に至っており、単なる街のおやじであります。

まだこの年になっても現役で仕事をしていまして、仕事以外でも市役所、商工会議所ロータリークラブ、と週3日ほどは忙しく動き回っています。ご存知の方もいらっしゃると思いますがこのクラブは世界 162 ケ国に約 110 万人の会員がいる社会奉仕団体で、1 クラブ 100 人ほどの会員で色々な業種の方々の集まりですので便利なこともあり、良き友人関係が出来、ポケルことはありません。

また岡崎には国立の自然科学研究機構というとても立派な研究所がありまして、私どものクラブがその先生方(日本各地、外国の方)のちょっとしたお世話をしている関係で時々機構長や各専門分野の先生方から最先端のバイオテクノロジーの卓話をしていただき興味深く拝聴いたしております。高校時代の眠くなるような生物の授業と違ってバイオの分野でもその目覚ましい進歩には驚いております。

近況報告としましては 11 月から 2 月まで血管系の病気で入院しまして、潰瘍でアキレス腱をダメにしたものですから寝たきりの約 3 ヶ月でシャバの空気が恋しくて、大好きなオペラのアリア集を聞こうとウオークマンを持っていったのですが、あまり聞く気にはなれませんでした。

やはり健全なる精神は健全なる肉体に宿る、またその逆も真なり、ですね。



(「会報掲載」に当たってのコメント：「単なる街のおやじ」である側面を持つこと、それが如何に大事なことであるかを痛感しています。地域社会のサークルなどに参加した場合、それが無いと仲間外れになってしまいます。とかく、現役時代の研究者・技術者としてのプライドが邪魔をしがちです。自戒しています。

今井)

5 - 3 . 佐々木 龍二 様

一昨年は難聴という病気にかかり、耳が遠くなりまして欠席いたしました。今年は耳も良くなり、リラックスしております。

先ほど今井さんのお話でちょっと私も気になりまして、そういうことまで今井さんが考えておられたという事は、今井さんの気力はなかなかのもので、そしてそこまでお気を配らせた事のほうが逆に悪いことをしたな、という感じをしているんです。

私としては、皆さん60年分の8ヶ月というお話が出ましたけれども、私は64歳ですから、64年分の8ヶ月になります。

また別の見方をしますと、生まれてこれまでに接触してきた人数というのは小学校から高校まで300人以上あるんですかね。300人の中の誰かとの接触なんですね。大学は3年間、単位を取るために真面目にやっていたので、その時は2~3人の友達がいました。クラスが40人~60人?。例えば100人として、100分の2~3人です。通研では今井さんを頂点とした5~6人の方ですから、それが64年分の一年でも毎日のような接触ですからお互いが接触した密度がどれ位高いか、ということです。

未だに永く年賀状をやり取りしているのが、大学時代からの友人が一名います。二番目に長いのが実は卒論のために入った通研の今井さんなんです。会社に入ってから続けているのは仲人の一名とほんの数人なんです。

私がこの会に出た目的は、皆さんそれぞれの思いがあるかも知れませんが、ただ今井さんに会いたかったというだけの話しで御座います。今井さんが会の維持のことを重荷にならないように、気になさらずに、ただ私共と会うということでこの会を維持していただけるだけで、私はすごく幸せに感じるのです。お会い出来ることが私にとって大事なんで、是非来年の懇親会開催も考えていただきたい、と思います。

近況報告という私、さっきも言いましたように、一切何もしておりません。というよりもするのを避けてきましたし、会社のことを考えるのも嫌なくらいです。うちの会社のOBなら誰にでも「社報」とか、色々なものが届くんです。私はそれを全部断ってきました。私の所へ来る情報は年金関係だけです。そういうことで、会社とそれ以後との繋がりを断つ関係できています。今、実際にこのような会合に出ているのはこの会だけです。

前向きにやろうと思っているのは、歩く、ということをやっているんです。これはもう10年以上続きますけれども。われわれのは年間50回歩きますので、一回20km歩くとして、1,000km歩きます。今年は控えようかと思っていましたけれども、現実にはもうこの7月だけで5回以上歩いていきますので、100kmですか。来年は減らそうと思っはいるんです。それは何故かという、金がかかるんです。一回歩くと交通費が2千円ですが、その他に飲み代が2万円かかるんです。本当は歩くのが目的ではなくて酒を飲むのが目的なんです。去年の10月から実は家で飲むのを止めているんです。家で飲むと運動しないので美味しくないので、歩くと美味しいんです。それで今は歩いている最中とか歩いた後とか、それしか飲んでいないんです。

20kmを4時間で歩きますから、朝8時に出発すると12時にはあがっちゃうんですね。12時から飲むと6時まで延々と飲むわけ。そういう状態で、今私の生きがい1は飲むことですね。それ以外は実は何もありません。午前中にパソコンをやり、午後は大体外に出かけます。10年ほど前に一ヶ月半強入院し、入院すると人生がぱっと変わりまして、それ以来私もこんな風になりました。

(「会報掲載」に当たってのコメント：私も定年退職後、週に3~4回は近くの遊歩道を歩くことを「日課」のように続けてきました。遊歩道には100メートル毎に距離が刻まれており、70歳台前半の頃は、「100m / 1分」に挑戦し、2km / 20分をどうにかクリアし、あとの2.5kmほどをゆっくり歩いて、計4.5kmほどの距離を約50分で歩くようにしました。私にとってはこれが限界でした。このときの経験から、佐々木さんは60歳台半ばとは言え、20km / 4時間とは驚異的です。

“歩くとならぬと美味しい”！この実感とても良く判ります。私の場合は、4.5km先にあるファミリーレストランで軽食をとるのが楽しみでした。その後、その席で2時間ほど原稿書きに集中できました。今井)

5 - 4. 斎藤哲也様

昭和 41 年卒業です。ソニーをリタイアして、経営コンサルティングのような仕事をしたいと思っているときに、金属プレスの方に再就職しました。長野県の坂城町と千曲市に工場を持っている会社ですが、上海に工場を建てたい、ということで土地探しを含めて上海に行って来ました。丁度その時に懇親会第一回目の話がありましたが、私はまだ上海の工場長として仕事を始めたばかりですから、失礼をいたしました。

その時の上海は 38 もあったんです。今年は日本の方が暑い、という感じがしますが、上海も暑いんですね。工場の中はもっと暑いんです。冷房が入れてなくて、プレスの工場ですからポンポンやっています。若い子も女の子も汗びっしょりで働くんです。私、できるだけ現場にいるように工場の中を毎日回って、どうだ、と言って一人一人に声をかけて回ります。女の子なんかも汗びっしょりかいて、ブラジャーもビッチョビッチョなので、きわどいんですね。

皆一生懸命働いてくれました。その時思ったのは上海、中国というのはエネルギーがあるなど。僕はもともとソニーで培った品質管理だとか、工場の運営をやっていたんで、自分で経営コンサルティングをしたいと思っていたわけです。多村さんがおしゃったようなことを自分でやりたかったんですが、金属プレスの方から『毎日来てくれ』と言われて、その会社に入っちゃったわけですが、それで2年間。体調が思わしくなく、昨年思い切って辞めさせてもらいました。上海の品質プログラムの構築、日本工場の ISO 9001, ISO 14000 の取得と二年間ではありましたが自分なりに貢献できたと思っておりますし評価しています。

丁度 60 歳のときに辞めて、今回で懇親会には2回目の参加です。会社を辞めたあの時は腰が痛くて体調がよくなかったのです。先程なにか新しいハビリティみたいな話がありましたね。今、ちょっとやっているのは普通の腹筋だとか背筋だとかを鍛えるのではなく、骨の周りの筋肉を鍛える方法です。今トレーナーについているんですが、東海大学の野球部のトレーナーが、たまたま近所でマッサージ業をやっているんです。そこではトレーナー付きで一時間1,500円でやってくれるんです。結構安いので気に入ってます。兎に角息を吐いた状態で、上体を上下させる運動をなささいとか、自分の状態を診て貰いながら、トレーニングとストレッチをしています。

足のシビレがあったんですが、今は全くありません。いままでのマッサージは兎に角受けた後は、それはそれでいいんですけども、また戻っちゃうんです。行く度に新しいメニューをやってくれるんです。左足、右足、上体とか一時間みっちりやってくれるんです。(それ、会報に載せてくれませんか、坪井)。今のは、やって見て僕に合ってるかな、と思います。俯きに寝た状態で息を吐き腹をへこます腹筋。普通の腹筋運動ではなく、息を吐いてから腹筋運動をします。そうすると骨の周りの筋肉が鍛えられる。この歳ではもうこれ以上体力が向上することがないわけですけども、維持することを教えてもらっています。そうしましたら、足のシビレがなくなりました。

昨年の懇親会に参加した時に『ハーモニカの講座に行っています』と紹介しましたがけれども、昨年の9月から、ハーモニカの同好会を新たに中井町に作りました。30名でスタートし、今25名で週一回同好会をやり、私がおの代表者としてやっています。約40年間合唱をやっていたものですから、それを生かしながら活動しています。ハーモニカというのは奥が深く、「たかがハーモニカ、されどハーモニカ」と感じています。今年の11月には病院の方に出かけるハーモニカのボランティアを計画しています。

又、合唱のボランティアとして、病院とか老人ホームだと年に何回か行くんですが、目の前で涙をポロポロ口出されると歌えなくなっちゃうんです。まあ、それでもいずれはそういう時期が僕にも逆の立場でくるんじゃないかと思うんですが、精一杯合唱のボランティアをやっています。

このような状況で健康にもなんとか目処がつき、上海から帰って来て、それなりの健康維持ができるようになってきました。ここに来て新しいハーモニカ同好会の運営と、それから4月に自治会の役員が回ってきてまいりました。もう逃げられなくなっちゃって、8月7日の納涼祭の準備だとか、色々なことをやっており、なんとか元気に活動を続けたいと思っております。

先程来、色々な提案がありましたけれども、私も大賛成です。やはり色々な人が色々な形で、これから生き方が変わってくると思うんですが、それぞれの人の生き方ということをも20~30分かけてやってもらえると参考になります。是非お願いしたいと思います。

(「会報掲載」に当たっての感想：とてもいいお話です。上海での精一杯のご活躍、その後の腰痛回復のためのトレーニング、ハーモニカや合唱を通してのボランティア活動など、どれをとっても一生懸命に「今」を生きておられる斎藤さんの生き様が良く伝わってきます。どんなに小さくても、人に何かの「感動」を

与えられるような余生を送りたいもの、と私も願っています。 今井)

5 - 5. 坪井孝光様

会報の方で今連載をさせて頂いている所なので、あちらの方で会社関係のところまではお話できるんじゃないかと思います。62才まで勤めたから会社勤めはもういい、とあって再就職はしませんでした。

会社を辞めた時はソニー長崎株の監査役を5年間ほどやっておりました。監査役というのは皆さんのお手本にならなければいけないということで、とにかく後ろ指を指されるようなことは絶対やらないようにした訳ですが、その反動ということではないのですが、もう会社勤めはもう一切やらない、と決めたのです。これからは好きなことをやらせてもらおうと、今では、とにかくゴルフのハンデを一つでも上げようと思ってやっています。しかしハンデは10のまま足踏みなんです。

ご存知かと思いますがアプローチとパターがうまくないとゴルフは上達しないということで、アプローチをやるには左足体重でもって振らなければならない。ということで、一日に何百球かそうやって打っていたところ左足にばかり負担がかかり、気が付いたら何か足が重いよと。ストレッチでもやらなければいけないと思い立ち、2ヶ月ぐらい前にストレッチをやったんです。ところが、思いっきり脚を曲げたためか「グキッ」ときたっきり体が痛くて動けなくなってしまったんです。ギックリ腰になってしまったんですね。ギックリ腰ってどんなものかが分らない。立っていれば痛くも何ともないので、凝りもせずにもたまたまゴルフの練習を毎日続けていたんです。そうしたら左の腰を庇うせいか、右の背中に痛みが来て、この痛みが取れなくなってしまったんです。

1ヶ月半ぐらい経ってからコースに出たら、一球打つ度に右の背中に激痛が走り、18ホールをやったのことで回ったわけです。これではいけないと思って、この2ヶ月はゴルフを止めていました。しかしストレッチはやらなければいけないのだけれども、腰も治さなければいけないというジレンマにあります。斎藤さんのお話のように骨の周りの筋肉を強くする方法は大変参考になります。年取ればみんな腰にくるよ、といわれるんですけども、そうではない人もいっぱいいるわけなので完治させたいと思っています。明後日はコースに出ることにしているぐらいには、快復はして来ているんですが草取りが一番だめです。立ち上がる時にグキッときます。それを出来るだけやらないようにしようと思っていますが、草はすぐ生えてくるので、ちょっとだけ草を取ろうと始めるといつの間にか草取りにはまっているんですね。非常に痛かったときには、パソコンをやる時には膝をついてやっていました。今はもう普通に座っても大丈夫になりましたが、そんなことでゴルフに熱中しておりますが、上達しないまま熱中しているわけで、下手の横好きです。

もう一つはこの会の会報を担当させていただいているお陰でパソコンは上達しております。会社を辞めた時にはメールを送る程度しか出来ませんでした。ワードもエクセルも部下がやってくれていましたので覚える必要がなかったからです。ですからパソコンに関しては楽しままま会社をやめてしまいました。この会報のお話が出来たときに、パソコンが出来ないけれども努力するから、と引き受けました。やっている内に少しずつ分るようになって来て、これが今では楽しみの一つになっています。パソコンはまだ奥が深いので簡単には上達しないとは思いますが会報を担当させていただいている間に、更に上達しようと頑張っております。

会報の文章を私がいかに加減にしか出せなくて、今井先生に送りますと一字一句から点の打ち方、文字と文字の空け方、文字の大きさ太さ、みんな事細かに指摘してくれるのです。今井先生による校正、訂正の後に会報が完成しているので、あの出来栄が私の実力とは思わないでください。少しでも今井先生の域に達するようにと努力しておりますので、是非これからも私をお引き回しください。

5 - 6. 島田慶甫様

懇親会参加は二度目なのですが、実は今回の参加を思案していました。

実は、次第が急逝した後遺症で精神的に落ち込んでいました。血圧はmax130台で入院の経験は一度も無く健康そのものの弟が、明日も勤めがあるので11時頃就寝したのですが、朝方3時過ぎに家人が気付いた時には既に意識が無くなっていました。救急救命センターに搬送していただいたのですが、くも膜下出血で手の付けようがなく一言も話せずじまいで逝きました。

この会の名簿を見ていると今井さんが一番上で、二番目が佐藤秀吉さんです。佐藤さんは初回の懇親会に参加して下さいましたけれども、すごく体調が悪いようでした。私は昭和3年生まれなので75歳ですが、後の4人は確か昭和3年が二人で、昭和2年が二人だと思います。この中で参加できるのは私と今井さんぐらいです。それ故元気なうちはなるべく参加したいと思っています。

今日感じたんですが、今井さんが最初にお話しされましたけれども、この名簿を見ますと昭和32年から、お終いが42年卒業ですから10年間ですかね。今井さんにしてみれば10年間ずーと卒研生を見て来ているわけですし、私は途中からなので5年くらいだと思います。私達は毎年卒研生が来ているので連続していると思うわけですが、ところが皆さんにして見ればたった一年なんです。中には8ヶ月しか居ません、という方もおりますけれど。

私は昭和18年に逓信省の電気試験所に入ったんです。それからNTTに移る時に今の通研で作った関連会社に就職し、最後は70歳半ぐらいまで勤めさせてもらいました。

一番感じるのは、この10年間に亘って通研以外の方が30何名ですか、会に集まってくれて、こいう会をやっているというのは私の知っている60年近い研究所生活でもって、今井さんのグループのこの会だけじゃないかと思うんですよ。これは皆さんにして見れば一年しか皆さんはそれぞれは付き合っていないです。これを皆さん集まって来ましてね、今井さんの下に集まって来るってのはね、これは今井さんの人徳っていうんですかね、それじゃないかと思うんですよ。

私が昔電気試験所に入った頃、頭のいいやつと家柄のいいやつにびっくりしたんじゃないかここには勤まらない、と言われていました。私が何故ここに居るかという、私の入所した昭和18年は戦時中でした、たまたま隣の同級生の家に電気試験所勤務の人が下宿していて、その方の薦めがあり勤めるようになりました。

丁度真空管の研究をやっていた頃、隣のグループがトランジスタを始めた頃です。今はLSIとかICとか言ってますけれど、トランジスタの始まりは点接触のものでして、ゲルマニウムの結晶に二本の針を立て、エミッター、コレクターにしていました。この針は磷青銅の線で作っていました。点接触は点じゃなくっちゃいけないんですが、80ミクロン位の線をカミソリの刃でもって斜めに切るんですよ。ゲルマニウムの結晶に、こう針を立てるわけですね。この実験をやっていた人が、その時の国家公務員試験の数学の成績がナンバーワンなんですって。そういう人がね、結晶に針を当ててトランジスタの研究をやっているんですよ。

私達はその頃まだ真空管だったんですけれども、トランジスタが何の役に立つのかと置いていたところ、一年ぐらいしたら、今でもやっていますけれど研究所の所内公開というのがありまして。その点接触型トランジスタを透明な板に4つ取り付けてレコードのアンプですかね、それでスピーカーを鳴らしてたんですよ。すごいな—なんて思いましたよ。今でも、点接触型トランジスタという言葉を知ると、隣の実験台で懸命にトランジスタに取り組んでいた、数学ナンバーワンと言われた人の姿を思い浮かべます。

二条さんという技師がおられ、京都の二条家の方。奥様は皇后陛下の従姉妹、身分証に菊の御紋がついているのを持っているような方なんです。戦時中に駅で汽車のキップがとれない、という時に身分証を見せたら菊の御紋が付いた身分証だったので、駅員がびっくりして、どうぞ、とか言って。そんなような方がいて、とにかく家柄が良いとか頭が良いとかにびっくりしていたんでは勤まらないんです。

はっきり言って本当に一番心配したのは皆さんが卒業研究に来ますと、研究所には結構優秀な人間がいっぱい入って来ていたので、そういう人と皆さんが入って来ると比較しちゃうんです。この人達が卒業論文を出して、社会に出てやっていけるのかなあと。申し訳ないけれどもそういうふうに思う時がありました。小野さんを知ったとき、この人はちょっとできるんじゃないかなあと感じていたんですよ。そのうち大学を卒業して何年か経ったら、学会に彼の名前が出ていました。

電総研というのは、昔、電気試験所が二つに分かれて出来たんです。一方は電気通信省の通研、他方は通産省の電総研となったんです。さっき帰られた塚本さんもそうですが、それぞれ自分の分野に行きますと皆さん一生懸命やっているんですね。ここに集まって来てくださる方は皆さん優秀な方だと思うんです。今井さんを柱にして集まってくださるということは何、非常に嬉しいことでもあるしお互いに皆さんを頼りにしているんじゃないか、と。

私が思うには、やはり人間同士の絆というのは非常に大事なんですよ。私は、会のためにはあまり何もできないんですけど、皆さんがここに集まって来てくれる気持ちっていうのをすごく嬉しく思っています。

厚木のNTT-AT(NTTの子会社)にいたときのことで、短大の家政科とか育児科とかを出た二十



歳の女性が通研に入って来て机をもらおうと、そこに MAC のパソコンが置いてあるんです。その子達はとにかく「これがパソコンだから使い方を覚えなさい」なんて言われて、3ヶ月ぐらい経つと自分のデータとか報告書を全部パソコンで書くんですよ。『島田さんもやりますか』と言われても、『今忙しいから』と言っていた。それが短大出た女性がですね、ましてそれが理工系じゃなくて文系の子が、3ヶ月ぐらいでパソコンが出来ちゃうんだったらね、こちらの方は通研に何十年もいたんだからやる気になればいつでも出来ると思ってね、全然やらなかったんですよ。

私は厚木に単身赴任で9年間いたんです。同じ子会社でも定年があるから、最後は家族孝行したいから武蔵野に戻してくださいと言っといたんです。しかし武蔵野に残っているのは半導体には関係が無かったんですね。一年ぐらいしたら、電子応用という研究室があって、少し似ているからどうぞ、と言って、こっちに帰してもらったんです。

そうしたらその装置はすごい装置で、直径12cmのシリコンウエーハーを1ミクロンくらいのフラットネスでもって研磨する装置なんです。これは丁度後樂園球場に2mmくらいの大きさの砂粒があると、その差が検出できるような装置なんです。装置の全部がコンピュータ制御になっていて、ある程度研磨すると測定し、その数値をコンピュータに入れなければいけないんです。それが出来なければその機械が動かないわけです。それで困っちゃってね、教えてはくれるんですけども、教えてくれる方はよく知っているからぱんぱん言うんですけれども、すぐ分なくなっちゃうんです。

これは困っちゃたなと思ったんですが、たまたま息子がその頃通研に勤めていたし、娘はベンチャー企業にはいっていたんです。そのくらいのことはできるパソコンの腕をもっていたので、娘に聞きながらやっとコンピュータそしてパソコンが使えるようになったんです。

そんなことでとにかくこの会は良い雰囲気なので、お互いにそれぞれ仕事が違うかどうかは分かりませんが、私も皆さんも見方、考え方は全部同じだと思うんです。だから、これからも本当に長く付き合わせていただきたいと思います。

島田さんは昭和18年に、昔の逓信省電気試験所と言った時に内田さん、宮嶋さんと共に入省されたんですね。さっきお話に出た二条さんという方の最後のお仕事が「伊勢神宮の大宮司」でした。私が家内と共に伊勢神宮に二条さんをお訪ねしたとき、「大宮司の下に小宮司が70人いるんだよ」といっておられびっくりしました。隅々までご案内頂き、帰りは「神宮庁」の公用車で「鳥羽」の駅まで送って頂きました。お願いした「揮毫」も後日お送り下さり、いま我が家に大事に飾ってあります。逓信省は、電通省を経て日本電信電話会社になった訳ですが、とにかく、逓信省というところには天下の秀才が集まることで有名でしたね。それから島田さんとか内田さんとか、実験のベテラン達の集まることでも有名でした。

多分皆さんも、こうした方と一緒に実験をされて、その実験手法の巧みさとか、感の良さとかそういうことに感心されたんじゃないかと思うんです。そういう伝統が電気試験所にはあったんですね。実際に実験をする人、それから指導する人、共に一流の方々が揃っていた、という非常に優れた人材に恵まれていた、ということです。そういう古き時代の伝統を引き継いで、その一部があるいは皆さんの所にも移った、と感じる方もおられるんじゃないか、と思うんですけれど。

あと、パソコンをやっている人が残念ながら新妻君とあなたの二人だけしかいないんです。島田さんがどうしてパソコン出来るのかな、と不思議に思っていたんです(今井先生)

6.(会員からの寄稿 会報第5号の感想文)

(1) 会報NO.5 落手(2004.9.22) 狩野 哲光様より

会報送付いただきまして有難うございました。「カソード開発記」先に読ませていただきました。昭和50年後半だと思いますがsonyの持ち運び型トランジスタTV(モノクロ)画面は8~10インチ ぐらいあったような気がするが・・・を女房が愛用していました。坪井式カソードは61年以降とすると、これは坪井式カソード以前のものということになりますか。とにかく長持で、ズーッと家にありましたよ。(当時小生はまったくTVを見ない人だったので機能がどうだったかは実感できなかったが)それはともかく、会報は年を追って出来栄が立派になりすごいです。幹事さんのエネルギー、実行力に脱帽します。小生このところ目の老化激しく、この鮮明な紙面もってしても既に読むのが苦しくなりつつあります。ではまた。

(2) (2004.9.27) 狩野です。この週末は、河口湖、宇都宮とやむを得ず音楽活動に出かけていました。

(坪井： 会報へのご感想、ありがとうございます。9/21に普通郵便で発送したのが翌日に届いているのに驚きです。体調の方はいかがですか。)

体調の方ですが、食べるのが駄目、飲むのも駄目なのでグルメ的にはつまらない生活を送っています。来年の秋ごろまでには、少なくとも食べる方はOKになる予定です。

レストランに関係しているのも皮肉ですが、レストラン、パパゲーノガルテンのHPリニューアルしたので見てください。http://homepage3.nifty.com/papa_garten/ トップページのコンサート案内の入り口から入ると、小生も出演するサロンコンサートの案内が出ているので、ご覧ください。

中村治時氏の寄稿に元理大のコーラスの先生印牧さんの音楽会の件が出ていましたが、去年は小生も未だやる気があって、おばちゃんの懇請を受け一年間お手伝いし(ここで石田君に初めてお会いしました)テノールの前列に小生も立っていました。(因みに森脇君は小生がお客に呼んだ。)中村治時氏のお顔は存じ上げていなかったで失礼してしまったようです。三井田君とは40年ぶりにお話しました。

今年は、体調良くなり、歌が駄目なので、Jazzギター主体の活動で、昨日は宇都宮に出かけてシニア大会に出場、10月30日には阿佐ヶ谷Jazzストリートに出演します(一時間ぐらい)。ビッグバンドなので杉並第一小学校の体育館です

(坪井： ソニーのポータブルTVは8インチが最初でした。このTVはケネディー米大統領のヨットに乗ったのが大きく報道され、話題を呼びましたが、大変高価なものでした。TV用には耐熱性のシリコンパワーTrが必要であったため、ソニーではわずか1%ぐらいの歩留でTrを製造しながらのポータブルTV作りであったのです。その8インチをお持ちとはまた驚きです。)

うーん残念ながら、小生が買ってやったものではなくて、そもそもは独身貴族で、ゴルフに車、旅行、と活動していた女房の姉上が所持していたものです。気の毒なことに程なく病に取り付かれ、他界し、家の女房が引き取りました。4年前、コントラストが落ちてはいましたが、未だ写っていました。そういう、名機であるとは知らなかったで、簡単にリストラの対象にしてしまったのは悔やまれます。

(3) 「第5号」入手の御礼(2004.9.23) 今井哲二先生より

プリントされると、ますます出来栄の良さに感心します。兎に角、写真といい、文字といい、使用している紙がとても素晴らしい。以前から凄く気に入っています。内容に関する感想と反省、後ほどまたメールしたく思います。取り急ぎ、労を謝し「第5号」入手の御礼まで。

(4) Re: 「会報第5号」の印刷完了(2004.9.23) 齋藤哲也様より

いつもながら頭が下がる想いの会報誌が届きました。お疲れ様でした。何もお手伝いしなくて済みません。

(5) 御礼ー今井研会誌送付(2004.9.24) 多村卓様より

2004.9.24 坪井様 多村でございます。先日は、早速の会誌(第5号)を送付頂き有難う御座いました。今度の会誌には掲載いただいたどの写真にも私が写っており実に嬉しいやら恥ずかしいやら・・・、大変恐縮致しております。編集の労をとられた坪井様には、本当に毎号ご苦労様ですと改めて御礼申し上げます。会当日は皆様それぞれ素晴らしいお仕事のご経験、体験談をご披露され、こんなことならもう少し事前に簡潔に整理してお話すればよかったと後悔しきりであります。特に、坪井様のSony Co.での直熱型カソード開発のお話には大変興味深く拝聴し拝読させていただきましたと同時に入社間もない頃の私の仕事と重ね合せ感慨ひときわ深く覚えました。当時私は、固体式の遅延線(超音波遅延線)用のガラス(遅延)媒体を探しておりました。弾性波の内部伝播損失が少なく且つ伝播速度の温度依存性(温度係数)が小さいガラス材はないか、それこそ日本中の名だたる光学ガラス会社、ガラス溶融にかかわる事業所を探し回りましたが、当時ガラスに<光>を通すことは当たり前で誰でも知っているのですが、<超音波>まで通したことはないな、と云わ

れ、随分変わったことを云う人が来たものだと思われました。既にアメリカでは、ご存知コーニング社がこの方面の研究が進んでいて遅延線用ガラス媒体に関する技術文献等も出始めておりました。上司に遅延線用ガラスからの材料開発を強く進言、説得したのですが、「うちの会社にはガラスの専門家が一人も育てない……」と云うことでこのプロジェクトは、そこで頓挫してしまいました。それから 10 年も経たないうちに固体式遅延線はヨーロッパのカラーテレビ方式(PAL 方式)のカラーTV セットでは不可欠な電子パーツとなり、日本では保谷クリスタルガラスさんがまさしく超音波の伝播損失の少ないゼロ温度係数に近いガラス素材を量産規模で供給できるようになりました。坪井様のすばらしいDHC 開発のお話とは違い、こちらは物にならなかったカッコ悪い話ですが、あなた様の経験談が 30 数年前の若い頃の自分を思い出す機会を与えていただいたと感謝致しております。又々長い駄文を書き送り申し訳ありません。

(6) (2004.9.26) 多村です。早速のご返事有難うございました。次回会報に又々掲載いただけるとの事、宜しいのでしょうか。私はいっこうにかまいませんのでお願い申し上げます。只今、所用で外出中につき取り急ぎお礼まで。草々

(7) 会報のお礼(2004.9.24) 塚本一義様より

会報今日頂きました。とても興味をもって皆さんの近況を読みました。今回も今井先生には小生のことを取り上げて頂き、少々面映い気がします。テープお起こしは大変労力のある作業ですが、坪井さんのおかげで立派な会報ができ皆さん喜ばれていることと思います。懇親会だけ出席し何もお手伝いできませんが、これからも出席だけは欠かさず、今井先生、幹事の方々の労に報いたいと思います。今井先生には原稿のミスを直して頂き、お礼申し上げていないかもしれませんのでよろしくお伝え下さい。



鈴木威一さんが、私の「眼と心の安らぎのために」と態々送って下さった。有難いことである。(右眼、眼底出血など、最近体調万全ならず：05.3.8. 今井記)

編集後記

会報 第 6 号 の前半には昨年 11 月にご逝去された新妻英雄さまを偲んで『追悼特集』を組み、研究者として又画家としての業績を基に関係諸氏による追悼文を掲載させていただきました。新妻さんの幅広い活動の一端を今回の特集で知ることが出来ました。

『追悼特集』をという話が出た当初は、どのような形態になるかさえ見当もつきませんでした。会員外の方々のご協力も得、このようなかたちに纏めることができ大変嬉しく思っています。

なお、この特集部分は別刷りとして約 30 部を通研関係者にお渡しすることにいたしました。ご投稿いただいた皆様にはご了解くださいますようこの場をお借りしお願い申し上げます。

後半には前号で載せ切れなかった第三回懇親会でのスピーチ後半と、会報第 5 号へお寄せ下さった皆様からの感想文を掲載いたしました。

会報は皆様からの投稿を一つの柱として編集されます。どんな事でもご遠慮なく気軽に寄稿して下さい。下さる様お待ちしております。

会報編集担当：坪井 孝光